

☆年間第2主日(1月17日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (サムエル記上 3章 3b-10, 19 節)

少年サムエルは神の箱が安置された主の神殿に寝ていた。主はサムエルを呼ばれた。サムエルは、「ここにいます」と答えて、エリのもとに走って行き、「お呼びになったので参りました」と言った。しかし、エリが、「わたしは呼んでいない。戻っておやすみ」と言ったので、サムエルは戻って寝た。

主は再びサムエルを呼ばれた。サムエルは起きてエリのもとに行き、「お呼びになったので参りました」と言った。エリは、「わたしは呼んでいない。わが子よ、戻っておやすみ」と言った。サムエルはまだ主を知らなかったし、主の言葉はまだ彼に示されていなかった。

主は三度サムエルを呼ばれた。サムエルは起きてエリのもとに行き、「お呼びになったので参りました」と言った。エリは、少年を呼ばれたのは主であると悟り、サムエルに言った。「戻って寝なさい。もしまた呼びかけられたら、『主よ、お話しください。僕は聞いております』と言いなさい。」サムエルは戻って元の場所に寝た。

主は来てそこに立たれ、これまでと同じように、サムエルを呼ばれた。「サムエルよ。」サムエルは答えた。どうぞお話しください。僕は聞いております。」

サムエルは成長していった。主は彼と共におられ、その言葉は一つたりとも地に落ちることはなかった。

第二朗読 (使徒パウロのコリントの教会への手紙 6章 13c-15a, 17-20 節)

皆さん、体はみだらな行いのためではなく、主のためであり、主は体のためにおられるのです。神は、主を復活させ、また、その力によってわたしたちをも復活させてくださいます。あなたがたは、自分の体がキリストの体の一部だとは知らないのか。しかし、主に結び付く者は主と一つの霊となるのです。みだらな行いを避けなさい。人が犯す罪はすべて体の外にあります。しかし、

みだらな行いをする者は、自分の体に対して罪を犯しているのです。知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから、自分の体で神の栄光を現しなさい。

福音朗読（ヨハネによる福音書 1章 35－42節）

そのとき、また、ヨハネは二人の弟子と一緒にいた。そして、歩いておられるイエスを見つめて、「見よ、神の小羊だ」と言った。二人の弟子はそれを聞いて、イエスに従った。イエスは振り返り、彼らに従って来るのを見て、「何を求めているのか」と言われた。彼らが、「ラビ(先生)、どこに泊まっておられるのですか」と言うと、イエスは、「来なさい。そうすれば分かる」と言われた。そこで、彼らについて行って、どこにイエスが泊まっておられるかを見た。そしてその日は、イエスのもとに泊まった。午後四時ごろのことである。

ヨハネの言葉を聞いて、イエスに従った二人のうちの一人は、シモン・ペトロの兄弟アンデレであった。彼は、まず自分の兄弟シモンに会って、わたしたちはメシア(油を注がれた者)に出会った」と言った。そして、シモンをイエスのところに連れて行った。イエスは彼を見つめて、あなたはヨハネの子シモンであるが、ケファ(岩)と呼ぶことにする」と言われた。

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

寒さが再びやってきました。冬の寒さはまだまだですから、温かくしてお過ごしください。緊急事態宣言も11の都府県に広がりましたが、緊急事態宣言が出されただけではコロナの勢いは止まりません。外出の機会をできる限り減らすことです。自分は大丈夫と思わず、行きたいところも我慢して、STAY HOMEしましょう。

さて、今日の主日からは特にテーマとしての狙いは見られませんが、強いて

言えは「神からの召し出し」と言えるでしょう。第一朗読では預言者サムエルの小さい頃の出来事が朗読されます。「主よ、お話しください。僕は聞いております」という聖句は有名です。福音では洗礼者ヨハネの弟子であった二人の弟子がイエスに出会ったことから、イエスの弟子になる様子が語られます。

第一朗読（サムエル記上 3章 3b-10, 19 節）

サムエルは神殿で三度神からの呼びかけを聞きます。その度に「はい」と答えて起き上がります。そして、神殿に仕えていた祭司のエリに伺いに行くのです。最初の二度は誰が呼び掛けているのかわかりませんでした。三度目の時に祭司のエリが呼び掛けておられるのは主だと理解して、サムエルに「主よ、お話しください。僕は聞いております」と答えるように伝えます。そして、サムエルは成長し偉大な預言者となっていきます。主からの呼びかけはすべての人にあります。しかしその声は小さかったり、私たちが大したことではないと考えたり、自分だけで悩んで人に相談しなかったりしているのです。また、主の呼びかけは若い時にだけあるわけではありません。年を取ってからでも神からの呼びかけはあるのです。私たちは神からの呼びかけの電波をキャッチするために、アンテナを正しい位置にセットしましょう。正しい位置とは「神を求め、神に向かって祈る姿勢」です。「主よ、お話しください。僕は聞いております。」

第二朗読（使徒パウロのコリントの教会への手紙 6章 13c-15a, 17-20 節）

パウロはこの手紙で、キリストの再臨を前にして誤った考えに気をつけるように諭しています。その誤った考えとは「古い律法が廃止されたから何をしてもかまわないのだ」というものでした。その中でパウロはみだらな行いに気をつけなさいと勧めています。私たちの体はイエス・キリストによって神のためにあがなわれたものであり、聖霊が宿る神殿でもあるからだと言っています。ですから、私たちの体はもはや自分のものではなくキリストの体の一部であるのです。大事にしなければならないのです。

福音朗読（ヨハネによる福音書 1章 35－42節）

ヨハネ福音の初めにあるイエスの弟子たちの召し出しの様子が語られています。ヨハネはイエスを見て的確な判断をして、連れの弟子たちをイエスに従わせます。何よりも主イエスに従うことが大切だと判断したのでしょう。二人の弟子はすぐにイエスに近づき、訪ねています。「どこに泊まっておられますか。」イエスは「来なさい。そうすればわかる。」二人の弟子はついていき、泊っておられるところを見たのです。つまり、イエスがどのような生活しておられるかを見たのです。そしてアンデレは、兄弟のシモンに「私はメシアに出会った」と告げ、シモンをイエスのところに連れて行ったのです。シモン(ペトロ)がイエスに出会うまでは一連の流れになっています。これはアンデレが出会ったイエスがメシアであると悟り、一刻の猶予もなく兄弟シモンに告げる価値のあることだと悟ったからだと思います。アンデレのこの行動力がなければ「偉大な主の後継者ペトロ」はいなかったでしょう。私たちはこの行動力、「イエスがメシアである」という信仰告白を他の人に告げる勇気が与えられますように祈りましょう。

P.S

1月18日(月)から25日(月)までは「キリスト教一致祈禱週間」に定められています。この祈禱週間は同じ主イエスを信じながら様々な障害のためにばらばらになってしまったキリスト信者たちの一致のために祈ることを目的としています。そしてそれは「一致して祈る」ことから始まるのです。「あそこがここが違う」と言い合うのではなく、主イエスを皆はこぞって礼拝できるように、今はその一致を目指して祈る必要があるのです。他人ごとにせず、自分自身から始めましょう。

今年の合同祈禱会はコロナ感染症による緊急事態宣言のために中止となりましたが、私たち足立教会も「一致して祈る」ことの大切さを心に留め、キリスト者一致のために祈りましょう。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光